は　じ　め　に

平成 29 年 4 月に特別支援学校小・中学部の新指導要領が告示されました。今後平成 30 年度からの移行を皮切りとして、高等部も含め新しい指導要領に基づく教育課程の編制実施が求められています。

今年度本校が取り組んだ学校経営の重点は「教育課程の改善」「安全安心な学校づくり」「ICT 機器の活用」「子どもの発表機会の増加」「交流の取り組み」など毎年着実に継続しているものから今年度から新たに取り組み始めたものまでありますが、以下では授業改善から教育課程の改善に向かうカリキュラムマネジメント、支援技術や支援機器を活用したイノベーション、スポーツを通した交流について紹介します。

本校ではこれまでも教育課程の改善に際し専門性の向上、授業改善に取り組んできたところです。今年度の実践研究では、授業改善の一環としてアセスメントチェックリストの活用に取り組みました。昨年度に引き続き先進校である広島県立福山特別支援学校から年間を通して指導助言をいただきながら、重度重複障がいのある児童生徒の認知・コミュニケーション指導の手引に基づくアセスメントを実施し研究授業を行いました。今後も児童生徒の実態把握にもとづく授業改善が全校で共通にできるよう進めてまいります。

自立活動では FBM に継続して取り組んでいますが、今年度は自立活動のイノベーションとして新しい機器等を導入しました。「楽スタ」は、ゴム張力により重力を免荷し、自律的に立位を取ることができる訓練環境として府立支援学校で普及しつつあるものです。「視線入力装置」は、コンピュータに視線を追跡する装置を接続し、視線だけでコミュニケーションソフト等の操作を可能にするものです。「レースランナー」は脳性まひのある子どもが徒競走やマラソンに参加できるようデンマークで開発された大型 3 輪車です。これらはまだ導入されたばかりで安全性の確認や個別のフィッティングを経て来年度からの本格使用に向け準備中です。

ボッチャはこれまでも本校で体育の時間に指導する種目としてありました。2020 東京オリンピックパラリンピックにおいてボッチャが正式種目になることから肢体不自由支援学校においてボッチャクラブ等の取り組みが盛んになってきています。本校でもスポーツを通した交流を推進するため希望者を募り部活形式で取り組みました。夏には東京で行われた全国特別支援学校ボッチャ大会(ボッチャ甲子園)に大阪代表として参加したチームに 2 名の生徒が参加しました。秋には、障がいのあるなしにかかわらず交流する、第 1 回インクルーシブボッチャ(アイボッチャ)には PTA 会員と生徒が 2 チームで参加しました。2 月には南河内地区ボッチャ競技交流会にチームを編成して参加します。

これからも本校では、授業を大切にしながら新しい時代・ニーズに対応できるよう子どもたちのために充実した教育活動を行っていきたいと考えております。

最後になりましたが、本実践研究に際しまして多くの方々のご協力をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、今度とも皆様方の温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 1 月 23 日

校長　　中島　康明